

## 特別活動部会

### <県研究主題>

望ましい集団活動を通して、児童一人ひとりの自主的、実践的な態度の育成と豊かな人間性をはぐくむ指導の充実と評価の工夫・改善

### 提案 1

提案者 源関 正浩（横浜地区）

### <研究主題>

指導と評価の一体化を図る授業実践～子どもを「育てる」特別活動～  
「よりよい学校生活づくりに参画しようとするいしきを育てる児童会活動」

### 1 提案内容

活動名 「交流オリエンテーリングを成功させよう」

#### ○学習指導要領から

児童会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

→学習指導要領の目標から、児童会活動を通して育てたい子どもの姿をイメージする。

#### ○活動のねらい

- ・活動のめあてを達成しようと、自分にできることを考えて行動することで活動への参画意識を高める。
- ・子どもたちの思いを共有し合うようにすることで活動への参画意識を高める。

#### ○本活動における評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団生活や生活についての 知識・理解
「交流オリエンテーリングを成功させよう」の活動を通して、「友達いっぱい」というスローガンの達成に向け、よりよい学校生活をつくらうとしている。	「交流オリエンテーリングを成功させよう」の活動を通して、「友達いっぱい」になるための方法について話し合い、判断し、集会に向けての準備や各学級の活動に取り組んでいる。	「交流オリエンテーリングを成功させよう」の活動を通して、全校で児童会スローガンの達成を目指した活動に取り組むことよさを知り、よりよい学校生活をつくるための活動について理解している。

#### ○成果（☆）と課題（●）

☆活動のねらいや子どもたちの思いを共有し合えるように支援していくことで、活動への参画意識が高まる。

児童会活動において参画意識を高めるためには、活動を計画する段階から全校児童の思いが取り入れられるようにしたい。本活動においても、原案について各学級で話し合ったり代表委員会をTVで視聴したりするなど、活動をつくっていく過程で多くの児童が参加できるようにしたことで、児童の活動への参画意識が高まっていった。

☆教師間で活動のねらいや指導のポイントについて共通理解を図ることで参加形態に応じた適切な指導を行う。

「事前に特活部で役割分担をし、参加形態（代表委員・司会・TV視聴）に応じた支援を行う」  
「打ち合わせで活動のめあてを発信し、教職員間で共通理解を図る」「代表委員をTV放送し、活動のめあてや全校児童の思いを共有し合う」などをすると、全校児童の児童会活動への参画意識は高まり、どの子も意欲をもって活動に取り組もうとする姿が見られるようになった。

#### ●子どもの発達段階に応じた指導の在り方を明確にする。

一年生にはどのような「参画」の仕方があり、どのような支援を行っていったよいのだろうか。

まずは教師がどのような活動であるかを伝えるべきである。そして、その活動でどのように参加したいか一年生なりに考えさせる場面をつくっていくことが大事である。

## 2 協議内容

### ・共通理解を図る

子どもたちに活動のねらいをしっかりと理解させるだけでなく、教職員間で共通認識をもって取り組むことの大切さがわかった。TV 視聴でも子どもたちがどんな活動をしているのかがわかり、教員間で共通理解ができているので、適切な助言ができることになりとても良かった。

### ・兄弟学級

1年生と4年生、2年生と5年生、3年生と6年生がペア学年となる。1組と1組が兄弟学級であり、1グループ8人程度。4年生から下級生をリードしていくことになるので、4年生の代表委員は下級生になんとか伝えようと自然と頑張るようになって良い。参画意識も高められる。また、こうした関わりが中学校の取り組みにもつながっていくのではないかと思う。

### ・言語活動の充実

活動に対するまとめ方として、お礼の手紙やプレゼントを下の学年から上の学年に渡すことなどして言語活動の充実を図っていく。代表委員の中でも自然と話題となり、国語の時間に手紙の書き方を指導するなど学校として取り組んでいる。

## 3 まとめ

- ・交流オリエンテーリングの取り組みは自発的、自治的に行われていてとても良かった。
- ・代表委員会をTV視聴という形で、物事が決定されるまでの過程を見ることができて、誰もが自分ごととして捉えられ、効果的な活動だった。また、決定したことを受けて、素晴らしい意見や考えは取り入れ、決定に加えて自分のクラスのオリジナル性をだしていけたらより良い。
- ・TV視聴は全校体制で臨むことで、子どもだけでなく教師の意識も高まる。低学年の先生が確実に代表委員会に参加できるので、連絡が不十分にならないだろう。
- ・TV視聴は学級会の充実につながる良い機会である。子ども教師も話し合いのポイントを学ぶ場になる。
- ・異年齢集団の指導は教師の指導体制が大切である。組織的に指導していく必要がある。教師は常に目標達成を意識して、児童の負担が増えすぎないように注意する。

## 提案2

提案者 尾崎 功典(湘南三浦地区)

### <研究主題>

一人ひとりのコミュニケーション能力を高めるとともに、クラス内の相互理解を深めることを目指した学級経営のあり方～エンカウンターを通して～

## 1 提案内容

### ○教師の願いをもって

本学級は穏やかで優しい性格の児童が多く、きまりを守ることにに関して特に目立った問題はなかった。



積極性に欠け、コミュニケーションが苦手な児童が多かった。

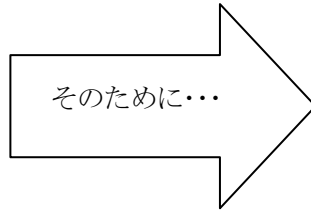


コミュニケーションを増やすひとつの手法として、エンカウンターを取り入れていこうと考えた。学年としての指導計画を基に学活・道徳の時間を組み合わせながら計画。学級を単位として、年間の活動を行った。

○実践の概要

「身につけさせたい3つの力」

- ① 自分を出すこと
- ② 友達の思いを感じる
- ③ 想像力を広げること



『関わる場』を提供

○評価の工夫

・学級活動(2)の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団生活や生活についての 知識・理解
自己の身の回りの問題に関心を持ち、進んで日常の生活や学習に取り組もうとしている。	学級生活を楽しくするために日常の生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	学級生活を楽しくすることの大切さ、そのための基本的な生活や学習の仕方などについて理解している。

エンカウンターを行う際には活動する姿やワークシートから、「コミュニケーション能力の高まり」「クラス内の相互理解の深化」ができていのかを見取り、振り返りシートを使った活動に対する自己評価により、活動の達成感、楽しさ、難しさなどを読み取り、指導内容や指導方法の改善、次の活動に活かしていった。

2 協議内容

・教師の願い

担任が児童一人ひとりを見取り、目指したい明確な児童像を持って計画、実践を行っていったことがとても良かったと思う。活動に入る前に、今日の活動をなんのために、めあてをしっかりと意識させたことが良かった。

・時数・時間配分について

年間 35 時間の中でどのように計画していくか考えることが大切。エンカウンターだけをやっても学活に変えることは難しい。また、エンカウンターを行った場合、45 分の最後は友達と考えや思いをシェアするだけの振り返りではなく、今後自分はどのようにしていくかを考える、個に還す時間が必要であると思う。今日の MVP を決めるなど子どもからの評価をいれる時間があったのもよかった。

・エンカウンター以外のコミュニケーションを高める取り組み

体育の体づくり運動で、身体を支えあったりレクリエーションをしたりして行っている。その他には外国語活動で簡単な会話を交わすことでコミュニケーションを深められるのではないかな。

3 まとめ

- ・子どもを大切にしたい良い取り組みだった。ねらいを基に、自己を出し想像力を広める活動だった。
- ・計画を立てたり、活動を行ったりする前に、「なんのために」コミュニケーション力が必要なのかそこからしっかり考えるべきである。学級会の最終段階の例として、避難所開設時の自治運営活動の在り方がある。いろいろな年代がいる中でまとめられるコミュニケーション力が必要とされる。それを特活で得たものが活かされるようにしたい。
- ・目指すべき姿を共通理解し、1年生から段階を追って育成していく。教師の指導は子どもの行動を価値付けすることになる。

グループ研究協議主題 ～特別活動を学校全体で推進するために～  
「教職員の協力体制の構築」・「評価計画の工夫」・「言語活動の充実」

## 1 グループ協議内容

①教職員の協力体制の構築 ②評価計画の工夫 ③言語活動の充実についての協議を行った。

各グループのまとめを、上記の番号①②③で示すことにする。

### Aグループ

①委員会カード→クラス2～3人で1枚だったものを、1人ひとりの委員会活動の様子を知るため1人1枚にする提案では、全職員が共通理解するまで、話し合いを進め、時間がとてもかかった。  
代表委員会→特活部担当だけでなく、全職員に意識化を図る必要がある。伝達方法としては書面だけではなく、視覚的にビデオ放送をしたりして伝える方法もある。

②評価計画→必要なめあて、育てたい力に合わせた評価計画を立てる必要がある。

### Bグループ

①児童会→課題点：職員会議で事前に提案をして共通理解を図っているが、新しいものを取り組むことはなかなか難しい。前年度から引き継いで行うことが、子どもの意志や必要性につながっているか。教師の理解のズレがある。学校の中で時間確保が難しい。

改善点：年度末に各行事の反省を書いてももらったり、子どもたちに直接聞いたりして、次年度に生かせるようにする。子どもからの発信だと職員に意見が取り入れやすい。ズレが少なくなるように、まわりが声を掛けたり、ベテラン教師に聞いたりして、協力体制を整えていく。

②委員会やクラブの評価→子どもに何を育てたいのか考えた計画と評価が大切である。目的が明確でないと、指導と評価の一体化もできず、意味のないものになる。

### Cグループ

①学年会議→子どもたちの中で実行委員をたてて学年会議を行っている。会議をすることにより、児童間で折り合いをつける力を学ぶことができてきた。また学年の担任の共通理解としても有効である。  
共通理解→各クラスの作品や提出物等を掲示板に掲示することにより、教師も子どもも共通理解できる。締め切りを早めに設定し、声かけをする。様々な活動での取り組みの価値や成果を示すことにより、次への活動につなげることができる。

②委員会やクラブ活動→振り返りカードにコメントをして一言添えた上で、担任に渡す。これにより、担任以外の複数の教師の目で指導と評価ができる。

### Dグループ

①各活動への参加体制→代表委員会など、ビデオ放送することで参加意識を持たせることができるが、なかなか現状は厳しい。児童会行事を、各学年で関わらせて全校での参加体制を整えていく。

③学級会の充実→話し合いの進め方を全校共通で行うなどの工夫。担任がいなくても、話し合いが進められるようになるとよい。話し合いのめあてや、学級目標を意識した意見が出てくる。役割分担を全員ですることにより、全員の言語が充実してくる。

### Eグループ

①個ではなく全体→共通理解を図ることが何よりも大切なので、研修をしたりテレビ発信をしたり話し合いを進めたりすることが重要。少しずつ協力体制を広めるために、クラス→学年→全体へと広げていく。係や当番の違いでも共通理解が図れないので、学校で統一したり、研修等で共通理解を図ったりして、地道に広めていく。

③話し合い活動の統一→話し合い活動の進め方を、学校で統一していることにより、スムーズな話し合いができるようになった。話し合いの進め方が身につけてきたので、代表委員会が活発になり、学力や能力が高まった。